

他人のために一生懸命になると、やる気が出る。

やる気になっているときというのは、他人のために一生懸命になっているときです。

「自分のために」と思うと「これをやるのは、また今度でいいか」と気が緩んでしまいがちです。

けれど他人のために何かをしているときには「やらなきゃ!」という気分になっているため、自然と体が動き始めます。



私は学生時代、クラスの情報収集をしていました。

学校の友達にクラスのアンケートを採って、どのクラスがいいのかを聞きます。

もし使い終わったノートやテストに関する情報があれば、集めるだけ集めます。

当初は、私が自分のとるクラスのために役立てようと始めただけです。

それが、途中で趣旨が変わりました。

私がクラスの情報を集めているということがどこから漏れたのか、広まっていきました。

私のところに「何かいいクラスの情報ない? ~のクラスって、どんなクラス?」と聞きに来る人が押しよせてきました。

実は、私はとても嬉しかった。

自分の行っていることが、誰かの役に立てればいいなと思い、喜んで情報を提供します。

学校とはいえ、情報社会なのです。

噂がいったん広まると、さらに情報が集まってきます。

みんなが情報のために一致団結します。

クラスの情報も、電話やメールで私のところへ報告されます。

私はいつの間にか、情報のまとめ役をしていました。

いつときは自分の勉強どころではなかった時期もありましたが、たしかにやる気が出ていました。

「自分のために」より「みんなのために」と思うほうが、やる気が出るのです。

これが自分の学生生活にも大いに役立ちました。

「自分のために」より「みんなのために」と思うほうが、期待されていると、やる気が出てくるのです。

☑やる気を出す方法 その4

「みんなのため」を**意識**して、**行動**する。